

日本生殖看護学会ニュースレター

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)



目次

・特集：高知でフニンを考えるー当事者のネットワークづくりを目指して	1
・第8回日本生殖看護学会学術集会のご案内	3
・第7回九州地区勉強会報告	4
・勉強会のご案内	4
・教育推進委員会からのお知らせ	5
・理事会報告	5
・もし不妊看護の現場で行き詰ったら	6
・不妊症看護認定看護師リレー寄稿 No.8	6
・不妊看護に役立つ図書・論文の紹介	7
・掲示板	8
・事務局からのお知らせ	8
・編集後記	8

特集：高知でフニンを考える ー当事者のネットワークづくりを目指して



人と地域の研究所 研究員 道草ヤスコ

わたしたち夫婦の“不妊デビュー”は、3年前の冬に訪れたクリニックでドクターから診断結果を聞かされた日に遡ります。タイミング療法に始まり、順調(?)にステップアップを重ね、5回の顕微授精を経て現在は治療を中断中。

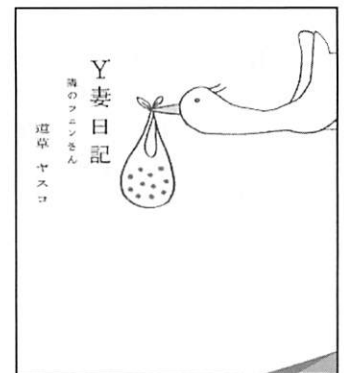
その間、悶々とした日をおくる中で思いついたのが、おこがましくも不妊治療の体験談を書くということでした。内容はあくまで軽めに、でも当事者の方のみならず、かつて自分たちがそうであったように、「不妊は他人事」と考えている多くの方にも実情を知っていただきたいと考えて出版を決めました。

本を実際に読んでいただいた方から、「実は自分も同じ経験をしている」「身近に当事者の人がいる」などという声を少なからず聞きました。不妊の悩みを持つ人は高知にも多くいることは明らかですが、地域での子育てなどのフォローが多面的に行われて周知もされているのに比べ、当事者にとっては子育て以前の難関である不妊をフォローするための場は乏しいのが現状でした。

クリニックで知った不妊当事者の全国組織に入会させてもらってもいたのですが、自分たちが住んでいる近くで実際に何らかの動きがあるかと言うと、県の方で不妊症患者のための交流会や相談会を含むセミナーが開催されてはいるけれども、それも頻繁にあるわけではなく、気軽に参加できる場が設けられてはいないということもわかりました。

本を出させていただいた地元の出版社との縁で、NPO法人「人と地域の研究所」内に「不妊・未妊の悩みフォローアップ部」を立ち上げ、こうち男女共同参画センターの事業も活用させていただき、今年の秋と冬に2回の「不妊のつどい」を開催する運びとなりました。

県内に住む不妊当事者の方を対象として、第一回は、2009年11月7日に「“不妊”を分かちあうつどいーフニン・未妊とどう向き合う?」と題し、前述の全国組織からピアカウンセラーを招いての講演会と交流会とい



『Y妻日記 隣のフニンさん』
(南の風社)

う構成で開催しました。講演会では講師自らが携わっているカウンセリングなどの活動紹介と、自身の不妊当事者としての体験から、不妊の悩みに直面している参加者に向けたアドバイスという内容で講演いただきました。

講演後の交流会では、話の内容に強く感銘を受けたという感想が参加者から寄せられ、不妊に悩む方の心に響く内容だったと受け止めました。また、

- ・ 子どもを期待する周囲の接し方についての気持ち
- ・ 治療を受けるうえでの不安、疑問
- ・ 周りに不妊を打ち明けたり、相談したりできる人がいないこと、また、相談しづらいこと
- ・ 通院先の医師との関係で感じること

など、不妊を抱える立場で感じているストレス、不安、疑問などが出されました。

講師のほか、医療関係、行政といった立場での参加者からそうした声に答えていただいたことで、当事者からは有意義な会だったという感想が寄せられました。



第一回 講演会風景

一方では、そうした専門的立場の皆様にも実務・政策のうえで当事者にどういったフォロー、関わり方が必要か、あらためて考えていただく良い機会になったのではと感じました。

課題としては、不妊当事者とひとくちに言ってもその悩みはそれぞれ異なり、今回は、ある程度治療などの体験を経てきた人向けの内容にやや偏っていたのではという意見もあったため、治療を受けている最中の人や、診察の時点で迷っている人などのためにも有意義な内容となるような場を設けていく必要があると思われました。

続く第二回は、2010年1月30日に「フニン」を分かちあうつどい—不妊・未妊の悩みドコロ」として、小規模な交流会という形で、前回の参加者や、前回の告知を見て知っていたが参加できなかった人の参加もいただきました。

日頃、治療や日常生活で抱えている悩みや疑問などを意見交

換してもらった中で、

- ・ 治療を続けていくうえでの夫婦間のすれ違いの悩み
- ・ 仕事と治療の両立の悩み
- ・ 先の見えない治療への不安

など、今まさに不妊と向き合っている当事者の声を聞くことができました。治療のステップアップを考える参加者が、先輩の患者である他の参加者に質問することもあり、同じ不妊症患者として直接話を聞ける時間を有意義に過ごしてもらえたのではないかと思います。

男性の参加者がなかったことと、一部の参加者の現状を聞く中とでうかがい知れたのは、治療を実際に受けることが多い女性に比べて男性側の姿勢がまだまだ消極的だということでした。また、周囲の人たちに不妊を打ち明けるのに勇気を要すると感じている人がやはりいるということも明らかになりました。

参加者から今後の希望として挙げていただけたのは、

- ・ 不妊を乗り越えて母親になった方の事例を本人から聞きたい
- ・ 生殖医療の保険適用範囲を広げてもらいたい
- ・ 何らかの形で、当事者の現状を社会に届けてほしい

といった意見でした。

いずれの会においても、交流会で出された話題の中で、これから治療を始めようという方も、既に治療中の方も、自分が通院しようとしている、もしくは通院している病院（クリニック）で受けられる治療が適正なのかどうかを客観的に知る手立てがないということに悩んでいるという実態がうかがい知れました。

インターネット上の掲示板やSNSで個人個人が情報交換する手段もありますが、実際に参加した経験から、医療機関への冷静な評価が常になされているとは考え難く、公的な立場等から地域内の病院に関する客観的な横並びの情報（治療内容や設備、費用などについての）が公開されると、そうした不安の解消につながるのではないかと考えられました。

つどいを開催することで、課題もいろいろと見えてきましたが、まずは当事者の方が同じ立場の方と意見を分かちあうことに意義があったと思います。これからも、自分たちのできる範囲でこうした会を開きながら、出席いただいた皆さんの悩みが医療機関や行政の方へ届くように、そうした機関との連携も図りたいと思います。

そして、不妊についてもっとオープンに話せる環境づくりを目指して活動していきたいと考えています。

第8回 日本生殖看護学会 学術集会のご案内



♡ メインテーマ

不妊の意味を考える

～治療開始から終結に向けて～

♡ 会期・会場

期日：2010年9月12日(日) 9:15～17:00

会場：徳島大学蔵本キャンパス内 (〒770-8509 徳島県徳島市蔵本町3丁目18-15)

♡ 学術集会概要

9:15～9:25	オリエンテーション
9:30～10:00	会長講演「不妊治療の意味を考える～治療の終結をどう迎えるか」 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 女性の健康支援看護学 岸田 佐智
10:10～11:00	基調講演「生殖医療に伴う倫理的課題の変遷」 前徳島大学長 青野 敏博
11:10～11:50	総会
12:00～13:00	昼食
13:00～13:50	ポスター発表会および質疑応答
14:00～15:30	一般演題(口演)
15:40～17:00	分科会 Ⅰ：不妊治療の体験から考えたこと(人と地域の研究所 山中 和子) Ⅱ：不妊症看護認定看護師の病院での役割(高知女子大学 関 正節) Ⅲ：高齢化と治療の選択(徳島大学大学院 教授 安井 敏之) 事例検討会
17:00	閉会

♡ 参加申込み方法：事前申込みは8月20日(金)までです。

<学術集会参加費>

事前申込み：会員4,500円、非会員5,500円、学生(大学院生・研修生は除く)1,500円

当日参加：会員5,500円、非会員6,500円、学生(大学院生・研修生は除く)2,500円

お弁当：900円(徳島の食材にこだわり、ヘルシー志向のお弁当です。)

<振込先>郵便振替：01670-9-68717 加入者名：第8回日本生殖看護学会学術集会
同封の振り込み用紙をご利用下さい。

♡ 交通・宿泊

<宿泊>大会HPに宿泊先リストを掲載しております。各自でお申込み下さい。

♡ お問い合わせ先

第8回 日本生殖看護学会学術集会事務局(担当：芝崎恵、岸田佐智)

〒770-8509 徳島県徳島市蔵本町3丁目18-15 徳島大学保健学科内

Fax：088-633-9032 or 7628

E-mail：jsfn8th@yahoo.co.jp

HP：http://www.geocities.jp/jsfn8th/index.html

<大学までの交通機関>

飛行機：徳島空港よりJR徳島駅まで バス約30分。

鉄道：JR徳島駅より、徳島市営バス(循環バス、あるいは上鮎喰行等)「中央病院・大学病院前」
または「医学部前」下車徒歩1分 200円

JR蔵本駅下車徒歩5分、または、徳島駅よりタクシーにて約10分。

バス：大阪、神戸等から、JR徳島駅行の高速バスもあります。



♡一人でも多くの方のご参加、お待ちしております。♡

*****第7回九州地区勉強会報告*****

報告者：国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 金丸 道子

テーマ：「生殖医療におけるリスクマネジメント」

開催日時：平成22年1月31日 14時～17時

開催場所：国家公務員共済組合連合会 浜の町病院研修講堂

参加者：29名

〈勉強会の概要〉

医療事故防止やリスクマネジメントの問題に看護職としてどのように取り組むかを考えるため、60分の講義を聴いた。その後グループワークで、Root Cause Analysis（根本原因分析）を用い事例分析を行った。

〈講演〉

「生殖医療のリスクマネジメントを考える」－製造業のリスクマネジメントの視点から－

産業医科大学産業保健学部 安全衛生マネジメント学教授 近藤 充輔

我が国の労働災害の現況や労働災害のメカニズム、安全管理の基本、職場の安全活動について講義があり、最後に受精卵取り違い事故についてリスクマネジメントの視点でコメントを頂いた。

〈グループワーク 事例分析〉

「生殖医療におけるリスクマネジメント」

蔵本ウイメンズクリニック 福田 貴美子

事故の分析方法としてRCA(根本原因分析)について紹介し、1.出来事流れ図の作成→2.なぜ・なぜ分析→3.因果関係図の作成→4.対策の立案をグループワークで行った

〈勉強会の評価〉

1. 勉強会の評価・アンケート結果 (N=24)

「勉強会に参加した目的は達成されたか？」できた7名(29%)、だいたいできた12名(50%)。「実践への応用に役立つか？」役立つ15名(63%)、多少役立つ5名(21%)

2. 感想・要望

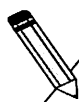
「製造業のリスクマネジメントも医療の分野でも基本は同じだということを感じた。リスク感性を高めるため、研修は定期的実施、参加したい。」「情報共有の必要性がわかった。」「グループワークでは講義が分かりやすく、事例検討も役に立った。自施設でも使用したい。」

3. 今後取り上げて欲しいテーマ

ストレス解消(体操、栄養、ツボ)、患者に対する視点のみでなく医療従事者への視点でも、生殖医療現場でのヒヤリ・ハット

〈まとめ〉

今回のテーマが生殖医療のリスクマネジメントであったためか、参加者はすべて病院、クリニックの現場で働く看護職者で、地域からの参加がみられなかった。参加者からは「医療事故は他人事ではない」「生殖医療とリスクマネジメントを再度、別の視点から取り上げて欲しい」などの意見があり、テーマに対する関心の高さが伺われた。



勉強会のご案内

第8回九州地区勉強会

ストレス社会と言われる現代、医療現場は常に緊張を強いられストレスの多い職場のひとつです。そこで勤務する看護職者が自分自身のストレス・マネジメントを行い心身ともに健康であることは、自己成長につながり、質の高い医療を提供する第一歩になるといえるでしょう。また、ストレス・マネジメントの知識や自己の経験は今後、不妊症患者ケアに活かせる内容であると考え、今回の勉強会を企画しました。なお、詳細は次号のニュースレターでお知らせしますので、日程を空けておいてください。

【日時】 2011年1月30日(日) 13:00～16:00

【場所】 国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 研修講堂

【テーマ】 仮題「ストレス・マネジメント」～看護職者の自己成長を助ける～

【内容】

1. 講演

講師：田中京子氏 (SATカウンセリング、カウンセリングオフィスKR代表)

2. グループ・ワーク

【連絡先】 熊本大学医学部附属病院 周産母子センター 本田万里子

〒860-8556 熊本市本荘1丁目1番1号 TEL 096-373-7046 (FAX可)

E-mail mariko-honda@fc.kuh.kumamoto-u.ac.jp

教育推進委員会からのお知らせ

教育推進委員会担当理事 森 恵美
阿部 正子

その1：「第7回生殖看護実践セミナー」テーマ募集

会員の皆様から看護実践セミナーで取り上げてほしいテーマ、ならびにご希望の講師を募集いたします。ふるってご応募ください。お待ちしております。

応募期限：8月末まで

応募方法：メールあるいはFAXにて、ご希望のテーマと講師名をお知らせください。

あて先：教育推進委員 阿部正子 abe_masa@md.tsukuba.ac.jp FAX 029-853-3440

その2：各地区で開催する勉強会の支援

教育推進委員会では、会員が主催する各地区の勉強会を支援したいと考えております。勉強会を企画されている代表者の方は、開催日時、開催場所、テーマ或いは内容、連絡先（住所、電話番号、FAX番号、メールアドレス）等を下記の連絡先までご連絡ください。よろしくお願い申し上げます。

連絡先 森 恵美 mori@faculty.chiba-u.ac

千葉大学看護学部 母性看護学教育研究分野

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

TEL：043-226-2410 FAX：043-226-2414

阿部正子 abe_masa@md.tsukuba.ac.jp

筑波大学大学院人間総合科学研究科

TEL/FAX：029-853-3440

その3：「各地区で開催する勉強会の支援」資金申し込み

勉強会を開催するために資金援助をご希望の場合は、勉強会の計画、テーマ・内容、予算案をまとめ、教育推進委員宛にご提出下さい。

理事会報告

第4回理事会（書面）

日時：平成22年3月4日(木)

【審議事項】

1. 入会審査：4名の新規入会を承認。

第5回理事会

日時：平成22年5月14日(金) 18時30分～19時35分

場所：聖路加看護大学2号館5階ミーティングルーム

出席：森明、村本、阿部、遠藤、上澤、岸田、清水、長岡、野澤、橋村、矢野

【報告事項】

1. 看保連対応WG：平成24年の診療報酬改定に向け、本学会より在宅自己注射の指導、不妊症看護認定看護師の配置の2件について申請を準備。
2. 第8回学術集会：学術集会の終了時刻を17時に変更。

【審議事項】

1. 入会審査：10名の新規入会を承認。
2. 科学技術振興機構の著者抄録文献データベースへの掲載については、有料にて許諾。

もし不妊看護の現場で行き詰まったら… 日本生殖看護学会が相談にのります

実際に患者さんと関わっていく中で、「目の前にいるこの患者さんにどのように対応したらいいのだろうか?」「患者さんとゆっくり話が出来る環境を作るためにはどうしたらいいのか?」など、臨床の現場ではシステムや看護観、倫理観などの中で問題やジレンマを感じるがあると思います。

実践開発委員会では、このような様々な問題に直面した時に直接ご相談をお受けし、よりよい不妊看護の方向性を一緒に考えていきたいと考えています。現在、このシステムは日本生殖看護学会のホームページ (<http://jsin.umin.jp/>) からのみのアクセスとなります。

会員の皆様からのご相談をお待ちしています! なお、お寄せいただいたご相談の中には、同じような悩みを持つ会員の皆様の参考になるものが多く含まれています。相談者の同意を頂いた上、相談後1年以上経過した後、相談された方が特定できない形に加工し、『不妊看護に関するQ&A』として、ニュースレターやホームページに順次掲載いたします。どうぞご了承下さい。

◆実践開発委員会で扱う“相談・問題”とは…

1. 事例の相談
2. 生殖医療の知識的なことに関する相談
3. 不妊の方と向き合う時の看護職自身のジレンマに関する相談
4. 看護する場の改善(相談室開設など)にともなう相談 など



◆相談される場合は…

日本生殖看護学会のホームページにアクセスし、専用の「ご相談内容記入用紙」に相談内容を出来るだけ詳細にご記入後、送信してください。後ほど、お返事を送らせていただきます。

不妊症看護認定看護師
リレー寄稿

No.
8

「認定看護師の輪」

聖マリアンナ医科大学病院 尾形 留美

さわやかな風薫るよい季節になってきました。山の上にある勤務先に原付バイクで通勤する私にはありがたい季節です。3期生の長谷さんよりご紹介いただきました、同じく3期生の尾形留美です。

今回のリレー寄稿は私の活動というよりは、当院での認定看護師の活動についてご紹介したいと思います。私は神奈川県川崎市にある聖マリアンナ医科大学病院に勤務しています。病床数1,028床の特定機能病院で、私の勤務する外来は1日約2,400人の患者が来院します。認定看護師(CN: Certified Nurse)の人数も12分野22人(不妊症看護CNは私と聖路加1期生の鳥光陽子さんの2人です)と多く、看護部の委員会「スペシャル支援ネットワーク」として院内教育、患者指導、看護相談など院内外の活動を推進しています。具体的には、新人技術研修の企画運営を行ったり、各分野の学習会の企画運営をお互いにサポートしたりしています。各分野の学習会は対象となるスタッフのクリニカルラダーを提示し、新人から中堅・ベテランまでが自分のレベルにあった学習会に参加できるようにしています。また、半年に1回、全体学習会を企画し3~4分野のCNがテーマに沿った講義をします。今年度前半の学習会テーマは「安全管理・リスクマネジメントの視点でケアを考える」です。不妊領域の講義はありませんが、他分野のCNの講義を聴講するのも学ぶことが多いです。2回の認定更新を経たベテランCNもいるので、講義を聴くたびにどうやったらこんなに人を引き付ける講義ができるのだろうかかと憧れます。このように、当院ではCNの先輩後輩が一緒になって活動を盛り立てています。多くの先輩方にご指導いただけて心強いです。

最後に、最近の私の活動を少しだけご報告しますと、当院外来が企画している市民講座「マリアビタミン」で不妊の学習会を開催しました。医師2名の講演とCNの講演、そして特別講演としてIVFなんばクリニックの森本先生をお迎えして講演をしていただきました。大変盛況でよい学習会となりました。今後は、もうひとりの不妊症看護CN鳥光さんと今年合格してくれるであろう新不妊症看護CNと3人で患者さん中心の看護をめざして活動していきたいと思っています。

今回は3期生の尾形優子さんにバトンタッチです。優子さんお願いします。

不妊看護に役立つ図書・論文の紹介

その 1

北里大学看護学部 上澤 悦子

1. 図書紹介

メディカ出版から2010年4月に「女性に寄り添う看護シリーズ①②③」の3刊が発刊されました。いずれの書籍も、生殖補助医療・周産期領域の専門医、臨床実践経験豊かな助産師・看護師が分担して執筆しており、最新のデータを引用しての医学知識、エビデンスに基づいたアセスメント、看護実践例などがコンパクトにわかりやすく解説されています。

また、書籍価格も2,000円～2,500円と購入しやすい価格に設定されています。そのため、不妊看護領域、周産期領域で活躍する看護職が気軽に購入でき、マイテキストとして手元における書籍です。

1) 女性に寄り添う看護シリーズ①

「赤ちゃんを亡くした女性への看護」 山中美智子編著、神奈川県立子ども医療センター看護局・母性病棟スタッフ著

*流産・死産・新生児死亡における援助の実際とグリーフケアについて、写真も多く採用され、ケアに大変役に立つ一冊です。

2) 女性に寄り添う看護シリーズ②

「不妊に悩む女性への看護」 佐藤孝道編著

*不妊の基本的な医学的知識と治療中の看護の実際について、治療段階に応じた不妊看護の実際が記述され、基礎教育のテキストとしても使用できる一冊です。

3) 女性に寄り添う看護シリーズ③

「赤ちゃんに先天異常が見つかった女性の看護」 山中美智子編著

*先天異常・遺伝の基礎的な知識と妊娠期から新生児の支援について、先天異常発生データや遺伝の基礎を確認でき、ハイリスク妊産婦や新生児のケア時には頼りになる一冊です。

2. わが国で初めての2007年度のART登録施設個票によるARTデータと現状

齊藤英和：ART登録システムとその登録データからわかるARTの現状，日本産科婦人科学会誌，Vol62(3)，739-745，2010

日本産科婦人科学会倫理委員会登録調査小委員会 齊藤英和委員長は、日本産科婦人科学会に登録されたART医療機関における患者一人一人の個別票を用いたインターネット使用調査から、わが国で初めて治療別、年齢別の新鮮胚あるいは凍結融解胚別、調整卵巣刺激の種類別データとして、2010年度日本産科婦人科学会誌3月号に報告しています。それら、わが国で実施されているARTの現状を理解したうえで、個々の不妊カップルの応じた必要な情報提供と看護を実践していく必要があります。

その 2

国際医療福祉大学 清水 清美

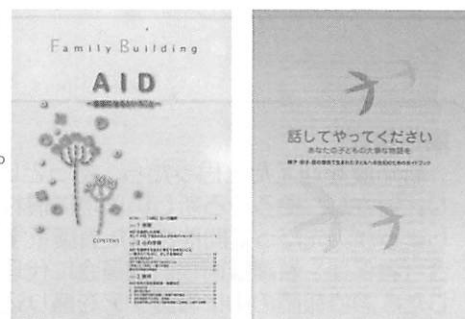
「Family Building AID- 家族になるということ」(発行 すまいる親の会)

「話してやってください あなたの子どもの大事な物語を」(発行 吉村泰典)

非配偶者間で子どもを得たいと考えているカップル向けの冊子です。不妊の相談に応じていると、夫婦間以外の生殖について相談を受けることもあると思います。そんな時、皆さんはどのように対応されているのでしょうか？

前者は、実際にこの技術を検討した不妊カップルおよび生まれた子どもからのメッセージです。治療を選択する前に考えておかなければならない課題が提示してあります(1冊500円、送料無料)。後者は、英国のTelling and Talking about Donor Conceptionを参考に養子縁組に長年関わってこられた岩崎さん(家庭養護促進協会)が、ご自身の長年のご経験をふまえて書かれた、生まれた子どもへの真実告知のためのガイドブックです(無料、送料別)。どちらも「子どもの出自を知る権利」を前提にして書かれています。不妊カップル用に作成された冊子ですが、不妊相談に応じている医療者にも一度は読んでいただきたい冊子です。上記ご希望の方は、清水までご連絡ください。

TEL : 0465-21-6651 メール : kiyomi.ns@iuhw.ac.jp



掲示板

<不妊症看護認定看護師教育課程の研修生募集>

聖路加看護大学看護実践開発研究センター

2011年度の不妊症看護認定看護師教育課程の研修生を募集いたします。

願書受付期間：2010年8月23日(月)～9月2日(木)消印有効

試験日：2010年10月2日(土)

研修期間：2011年6月1日～2012年2月28日

*毎週金曜・土曜の2日間が授業日です。ただし、8月末～9月末の1ヶ月間は平日連日の集中授業、1月～2月の1ヶ月間は実習になります。

また、併せて2010年度の聴講生も募集しております。

詳細は、本学ホームページ (<http://rcdnp.slcn.ac.jp/nintei/>) にてお知らせしています。

事務局からのお知らせ

1. 日本生殖看護学会へのお問い合わせ、会員に伝えたい情報、ニュースレターに関するご希望・ご意見などがありましたら、FAX：03-6226-6380 もしくは E-mail：jsin@slcn.ac.jp まで、お気軽にご連絡ください。
2. ニュースレターは郵送ではないので転送はされません。したがって、住所・氏名・所属等の変更がある方は、速やかにご連絡ください。
3. お知り合いの方をぜひ日本生殖看護学会へお誘いください。入会希望の方がいらっしゃいましたら、入会案内をお送りしますので、お名前、ご連絡先をお知らせください。
4. 日本生殖看護学会ホームページ (<http://jsin.umin.jp>) を適宜更新しています。ぜひ新しい情報をご活用ください。

重要 会費の納入をお願いします

平成21年度会費(平成21年9月1日～平成22年8月31日の諸活動に伴う会費です)の納入をお願いいたします。

口座番号：00170-2-333413 加入者名：日本生殖看護学会 年会費：6,000円

*ニュースレターに「払込取扱票」が同封されていない方は、納入いただく必要はございません。

なお、過年度分につきましても、ぜひ納入をお願い申し上げます(該当される会員様には、今回振込取扱票を同封させていただきました。入金確認の時間差もあることから、既にご入金いただいております場合は、悪しからずご容赦ください)。特に学術集會に参加する方は、早期に納入ください。

編集後記

新年度を迎えたと思ったら、あっという間に6月ですね。皆さん、そろそろ新しい環境に慣れた頃ではないでしょうか。先だって開催された看護系学会等社会保険連合(看保連)看護技術検討委員会に代理で出席してきました。診療報酬の中に看護ケアを盛り込んでいくかという検討は、診療報酬という対外的な評価を受けるに相当する看護ケアの質をいかに保証できるかを問う課題です。不妊治療は自費診療の部分が多いため、まずは診療報酬のまな板に載せるという壁がありますが、次回平成24年度に向けて、本学会でも引き続き検討していきたいと思っております。

(広報委員：野澤美江子、矢野恵子)

日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing : JSFN

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1

聖路加看護大学内

TEL & FAX 03-6226-6380

E-mail jsin@slcn.ac.jp

ホームページ <http://jsin.umin.jp/>